

# 環境DNAを用いた沖縄島南部地域の オキナワイボイモリの生息地の探索と両生類相の調査

琉球大学大学院理工学研究科富永篤研究室

琉球大学大学院理工学研究科富永篤研究室は、琉球列島の両生類を中心とした動物の分類、系統、集団遺伝、生活史、生態について研究を行っています。

## 【活動背景】

オキナワイボイモリは、沖縄島、瀬底島、渡嘉敷島に生息し、国内希少野生動植物種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されています。沖縄島南部の地域では、開発事業などにより、生息域が減少し、多くの地点での確認個体数が10個体以下であることから、まだ知られていない生息域を発見することが求められています。



## 【活動目的】

今回の活動では環境DNAを用いてオキナワイボイモリが残存している地点を絞り込み、目視で確認を行うことで生息地を探索し、後に残存していることが判明した地域の保全活動や今後の調査を行う上での指針にすることが目的でした。

## 【助成金の用途・活動結果】

当財団の助成金は、DNA解析の費用に活用いただきました。

結果、既知の生息域から本種の環境DNAの検出及び、現地調査で本種の卵と幼生を見つけることができたため、環境DNA解析は本種の生息地の探索に有用であることが判明しました。

## 【団体からのメッセージ】

活動をご支援いただき心より感謝申し上げます。2023年度の活動により、沖縄島南部のオキナワイボイモリの繁殖池を発見できたなど、重要な情報が得られました。沖縄島南部地域の自然は北部地域よりも着目されることが少なく、人知れず開発が進み失われることが多いですが、今回の活動のもと、沖縄島南部地域のオキナワイボイモリの保全活動を進めていきたいです。

